

## 第4回 長野市中心市街地活性化基本計画評価専門委員会 議事録

日時 平成21年2月18日(水)

午前10時00分から

場所 市役所第一庁舎8階 第1委員会室

### 【出席者】

	氏名
委員 (7名)	市川浩一郎委員、金澤玲子委員、越原照夫委員、石川利江委員、渡辺晃司委員、野崎光生委員、樋口敦子委員 (欠席：高木直樹委員)
事務局 (7名)	伝田都市整備部長、横山まちづくり推進課長、宮下中心市街地活性化対策室長、瀧澤係長、内山主査、長谷川主査、神田主査

### 1. 開会

### 2. 都市整備部長あいさつ

### 3. 委員長あいさつ

### 4. 議事

#### (1) 基本計画のフォローアップ報告時期について <資料1>

(説明者:事務局 瀧澤係長)

#### (2) 基本計画の変更について <資料2>

(説明者:事務局 瀧澤係長)

全員	了承
----	----

#### (3) 数値目標の最新数値と関連データについて <資料3>

(説明者:事務局 長谷川主査)

A委員	質問等あるか？
B委員	5頁の調査箇所15地点の調査ポイントの図面は、表示しなくて良いのか？
A委員	次回は表示してください。他には？
C委員	<p>自分の反省でもあるが、「住みたくなるまち」と「歩きたくなるまち」の数字が落ちて いる。「住みたくなるまち」の数値を見てみると、マンション建設数と似通っている。 平成20年に4棟できたおかげで1月に数値が伸びているが、その翌年、翌々年 をみていくと、下手をすれば、平成22年には、未着手とあり、何もできず、更に人 口が落ち込んでいく感じが見受けられる。今まで、長野市はマンション建設に頼っ て、居住人口を増やす対策があまりなかった。やったからと言って伸びないとは思 うが、やらないと更に伸びないので、対策をしないといけないと思っている。協議会 も考えないといけないと思っているので、市の考え方を聞きたい。</p> <p>もう一つ、世帯数が増えているのに、人口が増えていないという事は、一世帯あた りの人口が減っているということなので、一人世帯が増えている事になる。お年寄</p>

	<p>りが亡くなくても、わからない場合があるかもしれない。対策は難しい。だから、コミュニティを強化していかなくてはいけない。</p> <p>「訪れたいまち」はイベントをやれば、人は集まるが、「歩きたいまち」となると、やはり居住人口を増やしていかないとベースが押さえられない。自転車と言うのは概ね外から来た方が多いと思うので、歩行者を増やすためには、人を住まわせないと難しい。大きな課題だが、何か施策をしないといけないのではと感じている。</p>
B委員	そのとおりだ。歩く人はいくらかは増えている。
A委員	市のほうでは、どうか？
事務局	今後、マンション建設だけに頼る事には、危機感がある。平成17年にまちなか居住に関する基礎調査やアンケート調査をしているので、その結果の検証を深めたい。さらに、今後、長野市はどのようにしていかなくてはならないのかを考えていけないといけない。市民の意見を聞きながら今後のまちなか居住を考えていきたい。また、活性化協議会とも協力しながら、考えていきたい。
B委員	「住みたいまち」の中には、マンションだけでなく、福祉の事もタイアップしていかないといけない。相乗的な形にもっていかないと、家を作ったから住みたいとなるというものでもない。
D委員	マンションがあっても、人が減ってきているというのは、中心市街地から、出て行っている人もいるからであり、せっかくマンションを増やしても、人が増えない。単純で基本的な事だが、郊外のほうが便利で住みやすいと思っている人が多いから、こうなってしまった。それを、あえて中心市街地に住んでもらうにはどうしたら良いか。郊外に新しい家を持っていくパワーに比べて、中心市街地に引き寄せるパワーが弱い。私は、川中島に住んでいるが、川中島の勢いはすごい。新しい施設もできている。それ以上に中心市街地が魅力的だと思わせる強さがない。頑張らないと、気持ちは郊外に行ってしまうと思う。
C委員	以前のアンケート調査では、住みたい地区の1位が川中島だった。
E委員	<p>まちの中に住むと、生活には便利だが、居住コストが高つく。例えば、3,000万円で、どんな家ができるか考えると、中心市街地ならマンションで2LDKか70㎡位だけれども、郊外なら一戸建てで親子でゆっくり住める。それは、今の事だが、この先、自分たちが年老いた時に、どうしていったらいいのか考えると、やはり、居住のコストが高くても実際に生きていかなくてはならないのだから、それがコンパクト都市構想に繋がっていくと思う。</p> <p>今は中心市街地に新しいものを作って、郊外から住んでもらう事を考えているのだろうが、中心市街地の中での移動もたくさんあるため、マンションができてはいる割には人口が増えていないのではないか。</p> <p>平成17年度のまちなか居住の委員会をやっている時だが、新聞に、これらからは</p>

	<p>人口は増えないけれど、世帯数は増えるという記事が載っていた。つまり、核家族化なんてものではなくて、核家族の中でさらに分裂する、離婚率が増える、という問題が出てくる。そうすると、新しい人を呼び込むのではなく、今、中心市街地に住んでいる人達が、(自然減少は仕方がないが)社会減少を起こさないようにするためには、どうしたら良いのかという方策を打つのが行政の仕事だと思う。新しいマンションを造って人を呼んでくるのは、デベロッパー、民間の仕事。お年寄りで、あと2,3年のうちにはどこかに引っ越さなくてはならない人達が、そこに居、留まってもらって、さらに、その人達の子供達がそこに住めるようにするのが大事。それが、今まで話に上がってこなかった。しかし、個人の財産をどうするかという問題なので難しい。</p>
B委員	<p>目標 を担当するところ(ハードではなく)、「住みたくなる」ということを考えている部署又は組織等があるのか。</p>
C委員	<p>「住みたくなるまち」には多面的な要素を含んでいる。今まで、業界の方は郊外に向かって開発してきた。が、中心市街地はマンション以外は、何も住宅に目を向けていない。既存の建物に手を入れることもないし、目を向けてもいない。何か誘い水をして、方向を変えさせない限り、中心市街地に焦点があたらない。不動産業者やデベロッパーからも見てもらうように、(郊外の開発でなく)中心市街地の開発の事を、何か発信できないか。また、おばあちゃんが、住んでいるところを(スペースが余っているので)、何か活用できないか。まちとして、古い建物を利用して、魅力あるものに切り替えるなど。その辺の施策を一つ一つ打たないといけない。</p>
B委員	<p>その通りだが、ここは評価委員会なので…。逆に、評価委員会が、どこかの課でやりなさいとは言えないのか？</p>
F委員	<p>意見としてはいいのではないか。</p> <p>問題は二つに分けられて、一つは組織的な対応が難しいという事がある。</p> <p>別の調査で、地方都市への定住促進調査をやっているが、やはり行政が受け入れ側になる事が多い。担当セクションとしてきちんとしたものがない(一人とか二人とか)と難しい。横断的にやっている行政主体はうまくいってたり、あるいは企画政策セクションのような高いところにあると政策を打ちやすいという面がある。まちなか居住の推進についても、庁内で横断的な組織をつくるなり、もう少し上位計画に位置づけないと行政の方も動きにくいのではないか。</p> <p>もう一点は、まちなかに住みたい人がどういう人なのかということを考えないといけない。まちなかに住みたい人とそうでない人がいると思う。来てくれそうな人に焦点をあてて、短期的に移り住んでもらうような事をしないと、なかなか効果が出ない。あまり絞る事が良いのかどうかかわからないが、ある程度、マーケティングのような標的をきちんと決めてやらないと流れができないのではないか。</p> <p>前回のまちなか居住推進委員会では、先進事例で金沢市の事例を検討したいと</p>

	の事だったが、その後どうなったのか。
A委員	横断的な取り扱いというのはどうか。
事務局	今のところ、まちなか居住に関する庁内の体制は、具体的に示せるものはない。目標 のための事業として、区画整理、暮らしにぎわい再生事業を考えているが、まちなか居住支援事業についても検討していかなくてはならない。
B委員	この委員会としては「目標 の改善策として、マンションだけに頼るのではなく、もう少し中身のある『住みたくなるまち』の施策が足りない」という指摘にして良いのではないか
G委員	評価専門委員会が言える範囲がわからないが、F委員の話にも出たように、中心市街地に住みたい人とそうでない人がいると思う。ガーデニングなどをしている方は、庭が必要であるし。私は、ここから 5,6 分のところに住んでいたが、事情により引っ越す事になった。その辺りに家を建てようかどうしようか、という事になり、まさに市街地の真ん中のマンションに移った。それは文化度。自分がこれから年老いていった時に、映画館と図書館が歩いていける範囲のところが良い等の理由で選んだ。中心市街地の魅力は、ある種の文化性であり、文化度を上げていく事によって、まちの魅力が上がっていく。都会から地方へ移り住みたいと考えている人達は、一部は、農業をやりたい嗜好で中山間地(あるいは農業をできるところ)を選ぶ。が、そうではなくて、長野市ぐらいのまちに住みたいという人も沢山いると思う。そういったプレゼンが今まであまりなかった。また、アーティストもかつては東京に居ないといけないという時代だったが、今はアーティストが無理に東京にアトリエを持っている必要がない。もっともっと地方がアーティストを受け入れていけば良い。工芸をやる人は、広い場所が必要で、移ってきているが、絵とか彫刻をやっている人は今までは東京にいた。そういう人達の移住も考えられるし、アーティストインレジデンスみたいな形で、とりあえず空いている施設を使うという事も考えられる。それ自体は人数としては少ないかもしれないが、アーティストの持っているネットワーク・発信力は、地域の力を確実に上げる。空き店舗活用事業、起業家インキュベーション施設などあるが、そういう所に若手を入れていく等、今まで考えなかった事を長野市がやっていったら良いなという気持ちはある。
A委員	これは、議事の中の「中心市街地活性化基本計画事業の中の提案」に含まれるという事になる。我々が提案して、それを協議会などで検討して、具体的に進めてもらうという事で良いのか
事務局	そうだ。
A委員	では、今、出てきた意見を、集約して、協議会などと、具体的に進めてもらいたい。
D委員	「住みたくなるまち」の指標として、マンションくらいしかないが、他にないのか。もっとたくさんの材料があるはず。マンションの事よりは、人が住みたくなるという事は、どういう事なのか(この委員会ではないのかもしれないが)、徹底討論したらど

	<p>うか。どうして人が郊外へと行くのか、生物的に緑や土を求めているのか。それならば、まちに緑が足りないのか。騒音がいやで郊外に引っ越したい人もいる。中心市街地で静かなところに住むにはどうしたら良いのか。音の事や環境の事を、みんなで楽しく盛り上がるような場所があれば、長野市は、そういった事に力を入れているという風、流れが出てくる。そうすれば、違ってくる。</p>
事務局	<p>先程、庁内の体制としてはお話できるものはないと言ったが、活性化協議会の中では、そのような議論が出ている。</p>
E委員	<p>50事業のなかには、そういった項目が入っていないので、協議会のほうから追加してもらいたい。</p>
事務局	<p>今、話していることは、まちなか居住支援事業の骨格そのものだ。評価委員会からの意見として、市の中で、横断的に、施策として大きく考えるべきである。また、中活基本計画の中では、事業の追加というよりは、「まちなか居住支援事業」を来年度以降どう進めるか、活性化協議会と考えているところだ。評価専門委員会からもそういった意見があったという事を受け止めて、この事業を一步でも二歩でもすすめるように施策としてやっていきたい。</p>
B委員	<p>国に、どうやって数値目標との差を詰めるのかと言われた場合、マンション作りますという訳にはいかない。</p> <p>私の考えだが、「住みたくなるまち」とあるが、住むだけでなく、事業所(スーパーなど)も必要だと思う。利便性もあるし、通行量も増える。活性化のための四つの分析だから、居て住めばよいだけを「住みたくなるまち」の数字とするのではなく、映画館があったり勤務地があったりするのも間接的には、住みたくなったり、歩きたくなったりする引き金にはなる。ただ、住めばいいということではない。</p>
事務局	<p>ただ住むだけでなく、生活してもらうのが大前提だ。そうすると他の目標にも影響が出てくるので、そういった事も考えながらやっていかななくてはならない。</p>
C委員	<p>機能がたくさんあるのが「まち」である。郊外は「まち」ではない。団地、スーパーマーケット、機能が分かれている。「まち」は、暮らしがあって商売があって、全てが集まっているのが「まち」。もう1度、街並を見直す時機にきている。郊外は機能別に分かれていってしまっているので、歩いて暮らすには、程遠い。中心市街地の一つ一つのまちを見直しながら、このまちはどんなまちかなというところを復活させる事によって、良いまちに変わっていく。また、長野市のまちは都会化されていないので、やりようがある。マンションとか高層のビルばかりが建っているまちは、やりようがない。マンションに頼らず、小さなところを掘り起こす事によって、居住人口が増えていく。それが、結果的には回遊性のあるまちになっていく。全部絡んでいる。</p>
事務局	<p>基本的には、中心市街地の土地が動かないという事がある。地主さんは関係ない。住んでいる人と地主は、違う理論で動いている。そこに商売人が入ってきて違</p>

うことをやる。住宅に限らず、全てが投資の対象になっているから利潤の上がない仕事はやらない。日本中の企業が儲かる仕事しかない。ある程度の数値化ができて、できる事業には制度がある。住みたいという話の中で高齢化と世帯が増えるというような問題は、個人レベルになっている。行政がどこまで入っていけるのか、議論がしにくい。

いいものを作れば人が来るというのは、まぼろし。それがあから人が来るという事はある得ない。例えば、都心部というのは地価が高いから、その人の生活力などが影響する。都心部だけにいいものを作っていれば地価が上がる。じゃ、人が集まるかという、逆に減るといいうジレンマがある。

もう一つは、上空から見るとほとんどの土地は駐車場か空き地だ。あれをどうするか。あれが全てだ。大きな土地はない。まちづくり推進課などが地域に入ってまちづくりなどをやっていかなくてはどうしようもないだろうと思う。そして4、5人が集まったところでどうしましょうかという話になる。そういう時代が来た。手間暇をかけるてはならない、収益があがらない仕事。それがシステムとして成り立つか、それが行政として苦しいところだ。それを、1人とか10人かけて役所の低コストの中で成り立つのか。結局、民間ができない事は、行政でもできない。どこかのいい事例があって、地主も儲かってというのを、早くつくってそれを受け入れる事を考える。どこかの土地と企業だけがうまくいくのではなく、地域もうまくいくというものを作らないと難しい。

川中島の場合は、行政で道を開けないで民間の資金だけで全部やった。ここ数年でいくつか例がある。行政だけでは引っ張りづらい。地域だけでやるものもあっていいのではないか。それは資金がどこから来るかだけだと割り切らなくては活性化はできない。川中島が良いというのは、今、地価的に一番安いという事。周りに道路があって、結構利便性が良いと気がついたのだと思う。不動産業者が売れる土地と見ている。まだ伸びる。行政はコントロールできない。農家を含めた都市については相対的な議論が必要。都市計画を大きく拡大しないと決めているので、ある程度の宅地に関する開発は続くだろう。全体的な拡大は止めたので、あとは再生。再生するときには資金面が課題。個人レベルでは不可能で、例えば、300坪の家を息子さんが相続しても、結局そこに住まない。

都市整備部にとっても、まちなか居住というのは大きな柱のひとつ。既存の宅地の再生も重要である。

(4)その他 <資料4>

(説明者:事務局 長谷川主査、内山主査)

A委員	意見等あるか？
G委員	「20 野外彫刻ながのミュージアム事業」というのは彫刻をまちなかに集めるという話か？
事務局	今あるものを、移設して集めるのではなく、これから設置するもの(大体 1 年に1作品)は、計画期間中は、できるだけまちなかに作る。そのなかで、野外彫刻めぐりやぐるりん号を利用しながら野外彫刻を回ろうというツアーを充実させていきたいというもの。
G委員	今、日本の有名彫刻家の作品はほとんど長野市にある。冊子もあるし巡る事もやっているが(生涯学習課にも言ったが)、本当に活かされているのか。ほとんどの人は知らない。彫刻はある状況の中になければ、作品として成立しないが、成立しないような置き方をされているものがたくさんある。信濃美術館の館長とも話したが、城山公園を、彫刻の公園として、せっかくあるのだからいくつかを移設して、歩きやすい芝生にしたらどうか。信濃美術館は県立美術館だが、長野市立美術館というのではないので、長野市民にとっても大事な場所だと考えると、城山公園全体に、もう少しアートの雰囲気があれば…。今あるものがその地域になじんでいるので移せない、と生涯学習課からは説明を受けたが、市民の合意はもっと違う方法で取れるのではないかと思う。中心市街地を魅力的にしようというのなら……。長野でアートで続いている事はこれだけ。続いている事業を長野市の魅力作りに役立てて欲しい。私だけでなく、アート、文化に関っている人が皆思っていることだ。生涯学習課にも言ったが、皆がそう思っているとは思わなかったと言われただけで終わってしまっている。城山公園は、あるものでかなりの事ができると思っている。公園を直すという事は、お金がかかることだが、いまのままの城山公園は活かされていない。この事業にも、もう少し積極的に取り組んでもらいたい。
A委員	こういったアイデアを出した場合は検討してもらえるのか。 また、事業が実施中とあるが、終了というのはいつ終了になるのか。
事務局	中心市街地活性化基本計画の事業期間は決められている。個別の事業は個別の事業期間を持っている。中活期間中に予定の分が終われば完了という事になる。
G委員	すみません。城山公園はエリア外だった。
B委員	ここで話しておしまいではなく、次の委員会までに野外彫刻ながのミュージアム事業がどうなっているのか説明をして欲しい。せっかくの提案が雑談で終わってしまっはいけない。
C委員	この事業はどのような計画でやっていくつもりなのか説明をして欲しい。
G委員	予算を使ってやっていることなので、有効にやってもらわないともったいないと思う。
事務局	その点については、担当課をよんで、次回詳しく説明する。

	<p>もんぜんぷら座の説明の補足。正式決定ではないが、7階に企画の統計が入るとい う説明があったが、5階と8階にも事務所が入る計画がある。ひとつは、広域消防の 準備事務局が入りたいと言ってきている。暫定的に3年程度。本決まりになれば、出 て行くという事だ。また、住民自治協議会の第1地区から第5地区の事務局が場所を 捜しているという事なので、8階のエレベーター周りを使ってもらおうという検討に入っ ている。もんぜんぷら座の活用ができていくという事になる。</p> <p>前回の委員会でも指摘されているが、50事業の効果を具体的な数値で説明する必 要があるのではないかとのことだった。検証の方法など、多角的に考えていきたいと 考えているので、意見をいただきたい。</p>
A委員	難しい。全部の事業に対してか？
事務局	単独でも良い。
A委員	例えば、善光寺表参道灯籠復元事業は終了とあるが、この効果は？
D委員	市民にそれがどれだけ認識されているかとか？
事務局	どんな確認の方法論があるのかという事だ。
A委員	数値化しないとだめだ。 費用対効果ではできない。
E委員	費用対効果ができないから市でやっている。
B委員	費用対効果という言葉が嫌いだ。効果に対してはいいが、費用と効果は関係ない。
A委員	行政としては、責任があるから、効果があったことを示さないといけない。
事務局	事務局でも考えているという事で、また相談させてもらいたい。
D委員	<p>総合計画で、毎年1回市民のアンケートをとっているが、あの中に基本計画の事業を いくつか入れて市民がどれだけ認識しているかを調べれば、評価になる。知っている 人・意識のある人というより、やはり市民に対してどれだけ浸透しているかが大事だ と思うので、単独ではなく、そういう所で一緒にやっても良いかと思う。全部はできな いがピックアップして。</p> <p>もう一つ、先程の「住みたくなるまち」について。「28 まちなか居住支援事業」が なって、21年度に3,300万円の予算が計上されているが、具体的にわかりにくい。さ っき話していたことはここに入る。ここで予算が取れるのであれば、調査するとか、委 員会をつくったりできるのではないかと思う。好き勝手な事を言っているも、予算と機 関がないとできない。この辺を充実させればどうか。住みたくなるまちを良くすれば、 訪れる人も増える。この事業が大事かと思う。</p>
事務局	前回渡している資料だが、そういう形でやりたいと考えていたが、予算はついていな い。
C委員	それが市としての今の姿勢だ。
B委員	予算を欲しいと説得できる文章がつけられなかったんじゃないのか。
事務局	先程から話に出ているように、長野市としてどうするのかというバックグラウンド的なも

	のがない。来年度、協議会と協力して、現在住んでいる方の意向調査等を、21 年度やっていくなかで、その資料を基に基本的な事業を検討し、予算要求をしていきたい。まちなか居住支援事業が進んでいないという事が現状なので、やはり、それを進めていきたい。
B 委員	数値目標との差を縮めるためには、こういう事をやりますというような具体的な事を出していかないといけない。
C 委員	難問であるが、重要なポイントでもある。
事務局	この短い期間の中で、どれ位成果が出せるか疑問がある。17 年の時に、いくつかの案は出ている。そういうものを更に具体的に煮詰めて行けたらと考えている。協議会の力を借りて、幅広くやっていく必要がある。
A 委員	この委員会でもそういった提案があったという事で、協議会と具体的なものを考えて予算を付けてもらったらどうか。
事務局	予算の定義は難しいが、勉強するときの予算、基本計画の予算と段階的に予算を組んでいく。行政が単独で実施する時、事業はどうなってるの、具体的に内容がないとだめだよとなるとゼロになる。市がまちなか居住をやらないと言っているわけではなく、具体的なところまでいけば、その時、予算はつくだろう。
D 委員	そこに少し先行投資できないか。
事務局	システムで繋ぐことを考えている。
D 委員	そこに、しっかり懸けないから、一つただ建物建てる、承認しましょうになってしまうような気がする。本当はここに予算がついて、職員をつける、やる気のある人を呼んで一つ事業をやるとういうのを、先行でお金をかけるようにすると、まちづくりという感じになる。今、そういう事でない事に、大量にお金を使っている(道路など)。
事務局	道路関係の予算は毎年 10 パーセント落ちている。
E 委員	予算が毎年 10 パーセント落ちているという事だが、全体が下がっている時に、個別の云々ではなく、まちなか全体が賑わっているのが感じられるようになってほしい。数値的に多少追いつかなくても、商売としては実体が良くなっているという事が感じられれば良い。そういう所を検証するシステムは、いまのところこの会議。だが、具体的にそういう感想はどこからも出ていない。
B 委員	でも、国に対して困るのでは。
事務局	それは、行政側で考える。
E 委員	長野市だけが、以前と比べてにぎわっているかどうかではなく、いまの時勢で他の都市と比べて長野市はどんな状況なのかという事を知らせてもらう事が、一番元気がでる。他の都市に比べて良いのであろうという前提で言っているが、その辺のアナウンスが聞こえてこない。
事務局	どこかの地区で活性化しているという例はあるが、日本中で全部の行政区域が活性化するという事はなく、どこかが良ければ、どこかが沈んでいる。良い所をみるより、

	<p>悪い所を見て、なぜ失敗したかを見る。それを真似せず、良いことを考えようとしてい            なくてはならない。</p> <p>他の都市の事情とは、なじまないと思っている。しかし、情報の共有(公開)は、きち            んとやっていかないといけない。</p>
A委員	我々の意見をまとめて、是非具体的な方向に行くようにして欲しい。

5. 事務連絡

6. 閉会